

シンポジウム「被害想定をどう読み解き、減災の取り組みにどう活かすか」

主催:一般社団法人 日本建築学会 都市計画委員会 地域防災・復興小委員会

日時:2014年 5月 23日 (金) 13:30~17:00

会場:建築会館会議室 (東京都港区芝 5-26-20)

3.11の経験をきっかけとし、減災・防災まちづくりは新たなフェーズに入ったと言える。南海トラフ巨大地震の被害想定をはじめとする、これまでとは異なる性格といえる「最大クラス」の被害想定が定着し、津波防災地域づくり法等、想定が地域づくりに直結したしくみも作られつつある。一方で、最大クラスの総手は、現在の社会の対応力に照らし過大であり、防災行政、或いは、防災まちづくりの現場にある種の混乱が生じているようにも感じる。また、地震被害想定は不確実性や誤差を内包するものであるが、必ずしもそれを防災行政、防災まちづくりの担い手が十分に咀嚼し、受け止められているとも言えない。本研究集会では、防災行政、防災まちづくりの現場からの視点に立脚し、被害想定のあるり方、その受け止め方・活かし方に焦点をあて議論を行う。

<プログラム>

問題提起

- ・加藤孝明 (東京大学) : 被害想定と減災・防災計画の関係のあり方 (仮)
- ・岡田成幸 (北海道大学) : 被害想定手法の限界と使われ方のギャップ (仮)
- ・廣井悠 (名古屋大学) : 地震発生の不確実性 (仮)
- ・黒沢大陸 (朝日新聞) : 被害想定 of 社会への伝え方 (仮)

パネルディスカッション

- ・コーディネーター: 牧紀男 (京都大学)

定員: 50名

参加費: 会員 1,500円 会員外 2,000円 学生 1,000円 (資料代含む/当日払い)

Web 申込み: <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=745> よりお申し込みください。

問合せ: 事務局 研究事業グループ 浜田 TEL 03-3456-2051